

首都高の安全を守る

小学生が点検業務を体験

首都高速道路の安全を守る仕事などについて学ぶ、小学生対象の職業体験プログラムが、3月下旬に初めて行われました。その様子を取材しました。

プログラムは小学5、6年の約20人が参加。子どもたちに働く楽しさを知ってもらおう活動に取り組み団体「フューチャーイノベーション フォーラム」と、首都高速道路株式会社との共催です。同社西東京管理局（東京・千代田区）などを見学しました。

私たちも、高所作業車に乗って同管理局敷地内にある首都高の高架橋を点検させてもらいました。車が通る振動を感じながら、ハンマーでコンクリートをたたきます。中に隙間がある部分は、乾いた高い音がするそうです。様々な大きさの隙間を設けたコンクリートの模型をたたくと、簡単に音の違いを聞き分けられました。

損傷が見つかったら、危険度の高い場所から優先して修復します。



ハンマーで首都高の高架橋をたたいて異常がないかどうか調べるジュニア記者

このほか、超音波を用いて鋼材の内部にある傷を調べたり、紫外線を当てると色が変わる物質を使って鋼材の表面にあるひび割れを調査したりする作業も体験しました。

1都3県の約300キロを結ぶ首都高は、高速道を見回る日常点検、地震や台風の際に異常がないか確認する臨時点検、5年に1度の定期点検が行われています。

同社の池谷勝之・広報室長は「点検で大切なのは、近くまで行き、目で見て、触ること」と話します。塗装がはがれたり、ボルトが外れたりした所などを重点的に点検するそうです。

見学後、同社の橋

本圭一郎社長が、参加した小学生の質問を受けました。首都高の未来について聞かれると、「首都高は動き過ぎだが、健康な状態で、次の世代に引き継ぎたい」と答えていました。地道な作業の積み重ねが、安全を支えているのだと思えました。

△ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班＝高2・江田翔太、高3・高橋美桜記者▽